

スレッドレーススコリア

当館所蔵の「スレッドレーススコリア」が平成28年4月19日に県の天然記念物に指定されました。これは桜島の大正噴火（大正3年）のときの噴出物で、長径2mもある巨大な軽石のようなものです。表面にはたくさんの穴がありますが、これは溶岩が噴出した時に、中に含まれていたガスが抜け出したために生じた気泡のあとです。スレッドレーススコリアは極端に発泡しているため、気泡と気泡の間の壁が破れ、糸状となって立体的な格子状構造をつくっています。この標本は構造が珍しいというだけでなく、桜島大正噴火時の噴出物として、学術的にも歴史的にも貴重な資料です。

「みちおしえ」

主任学芸主事 與 崎 泰 久

城山の遊歩道を歩くと、私の足もとをちょっと飛んでは着陸し、またちょっと飛んでは着陸し、まるで道案内をしているようなきれいな昆虫に出会います。汗を拭きながら城山展望台をめざしていると、ちょっとだけ気持ちを和ませてくれる昆虫です。この昆虫の正体はハンミョウです。古里のミカン山に行く時よく見かけていたのです。昆虫網で捕まえて自宅に持ち帰ると、祖父が「この昆虫はミチ

オシエとって山に登る人の道案内をする昆虫だよ。たくさん捕まえると山に登る人が道に迷ってしまうぞ。」と教えてくれました。

昔の人たちは生きものの様々な習性を人間の姿と重ね合わせて名前をつけ、生きものや命の大切さを子どもたちに教えてきたのかもしれない。猛暑も終わり、すがすがしい季節となりました。野山を散策し、家族と自然について語り合う時間をつくりませんか。

別館50周年企画

「天文」が大きく変わります



宝山ホール4階のプラネタリウムと化石展示室は文化センターの施設として、昭和41年11月15日に開設されました。今年で開設50年となります。

11月9日(水)～15日(火)の6日間、以下のような50周年の企画を実施します。

1 天文展示室リニューアル

(1) プラネタリウムの歴史としくみ

50年前に設置されたプラネタリウム「M-I型」は鹿児島県最古のものです。他にも鹿児島県内のプラネタリウムについて紹介するコーナーを設置します。プ

ラネタリウム秋編の創作星物語は、M-I型が登場する「50年目のしし座流星群」をお送りします。

(2) デジタル四次元地球儀



これまで期間限定で設置していましたが、今後常設します。

2 プラネタリウム特別企画

現在のプラネタリウムは36年前から稼働していますが、投影する星空は見事です。この美しい星空を見ながら、美しい音楽を聴く「プラネタリウムミニコンサート」を11月13日(日)に実施します。

これら以外にも、いろいろな企画を行います。詳しくはHPやチラシ、ポスターをご覧ください。

本物の恐竜! 「化石展示室」

宝山ホールの4階、エレベーターを出て右側を見ると、2体の大きな恐竜化石が迫力ある姿で出迎えてくれます。昭和41(1966)年から展示・公開されているこの恐竜は肉食恐竜のアロサウルスと草食恐竜のカンプトサウルスです。この恐竜化石、実は60～70%が本物なのです。本物の恐竜化石をこのように展示しているのは、全国でもあまり例がありません。

これらの恐竜は約1億5000万年前(後期ジュラ紀)の北アメリカ、ユタ州のモリソン



カンプトサウルス(左)とアロサウルス(右)

層という地層から発掘されました。この地層から発掘された恐竜は全部で70体で、そのうち15体が草食性、55体が肉食性です。

みなさん、2体の恐竜のあご、歯、爪、骨盤の形などを比較してみてください。その違いにきっと驚くと思います。



アロサウルスの頭部 歯が恐ろしい…

〈企画展〉鹿児島県の自然災害

2016年10月1日(土)～12月4日(日)まで、企画展「鹿児島県の自然災害」を開催します。

今年の4月、一連の大きな地震が熊本県を襲いました。これらの地震の最大震度は、気象庁震度階級で最も大きい震度7を観測しています。鹿児島県内でもこの地震の揺れを感じ、恐怖を感じた人も多かったのではないのでしょうか。



亀裂の入った道路

地震の揺れを感じたとき、皆さんは何をしましたか？慌てずに落ち着いて行動することができましたか？



倒壊した家屋

鹿児島県は、地震のほかにも、火山の噴火、豪雨・水害、土石流、台風など様々な災害が発生しやすい地域です。災害による被害を防いたり、減らしたりするためには、どのような対策が必要でしょうか。

この企画展では、鹿児島で発生する自然災害の原因やこれらの災害から身を守るために普段からどのような対策をしておけばよいか紹介します。



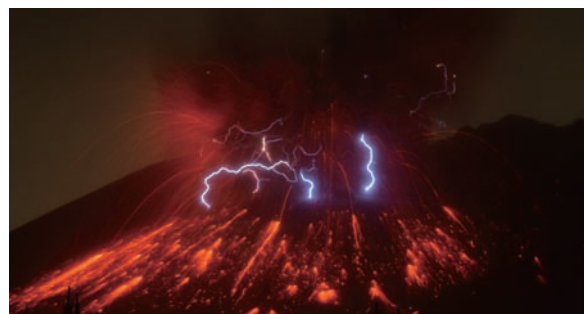
針原地区土石流災害

提供：出水市



天降川浸水被害

提供：稲崎実氏



桜島昭和火口の噴火と火山雷

提供：成尾英仁氏

蔵出し博物館「日本のチョウ・フィリピンのチョウ」

当館は約15万点の標本を収蔵していますが、それらを皆さんに紹介するのが蔵出し博物館です。2016年12月17日(土)から2017年3月



フィリピンキシタアゲハ

5日(日)まで、蔵出し博物館「日本のチョウ・フィリピンのチョウ」を開催します。

県立博物館の元館長：福田晴夫氏は、1973年にフィリピンの大学に留学され、現地で採集・調査研究を行いました。シダを食べるジャノメチョウ科の幼虫を発見するなどの成果を挙げられ、その際の貴重な標本は全て博物館に寄贈されています。この時期の標本で、採集者のラベルの付いた標本はとても貴重です。

また、鹿児島昆虫同好会に所属されていた神園香氏は、日本各地、東南アジアなど海外で採集され、90箱に及ぶ標本を残されました。遺族より寄贈された神園コレクションも同時に展示します。

展示紹介

鹿児島のカエルたち

日本には42種のカエルがいますが、鹿児島県にはそのうち約半数にあたる20種のカエルが分布しています。同じ県内でも、本土と奄美群島ではヌマガエル以外はすべて異なる種です。また、ウシガエルとシロアゴガエルの2種が、外来種として県内に定着しています。

現在、本館2階の企画コーナーでは、県内にいるカエル全種のレプリカ(複製品)を展示・紹介しています。レプリカは標本そのものではありませんが、当館が長年かけて収集した実物をもとに、形・大きさ・色を精密に再現して製作したものです。ニホンヒキガエルの背中の突起や、「日本で最も美しいカエル」と言われるアマミシカワガエルの美しい斑紋も、見事に再現されています。

南北約600kmにも及ぶ鹿児島県の多種多様なカエルたちを、是非ご覧ください。



ニホンヒキガエル (レプリカ)



アマミシカワガエル (レプリカ)

学芸室の窓から

この夏開催された企画展「ブキミな動物」では、当館の所蔵標本やレプリカの他に、飼育展示も行いました。元々館内で飼育していたアオダイショウやアカハライモリ以外は、野外で採集してこなくてはなりませんでした。

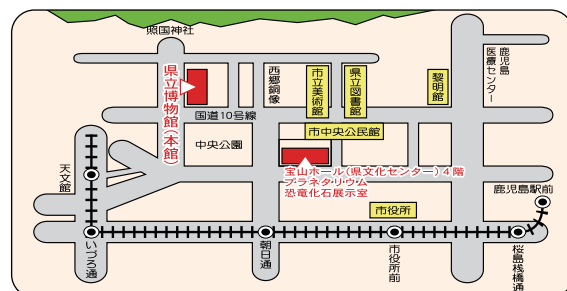
特に苦労したのがヤマナメクジで、「1匹では見栄えがしないから10匹位採ってこい！」とY主任学芸主事から無理難題を言われ、深夜の森に何度も探しに行きました。



手のひらを這うヤマナメクジ

苦労の甲斐があって9匹ものヤマナメクジを入手して迫力満点の展示となりましたが、飼育を開始して驚いたのが、ヤマナメクジの分泌する粘液です。量が多いだけでなくゲル化して水槽にこびり付き、洗剤で洗っても全く取れません。約2か月間の企画展開催中、数日おきにスポンジで水槽をひたすらこすって粘液を取り除く羽目となり、二度とナメクジの飼育はしないことを固く決意したのでした。

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号
TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080



ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>